

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4571700717		
法人名	社会福祉法人あさぎり福祉会		
事業所名	グループホーム朝霧 2号館		
所在地	宮崎県都城市高城町大井手 1 0 4 9 番地 (電 話) 0986-53-2505		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町 2 番 2 2 号		
訪問調査日	平成20年10月22日	評価確定日	平成20年11月28日

【情報提供票より】(平成20年9月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤16人, 非常勤0人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨木造 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(平成20年9月22日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	2	要介護2	5
要介護3	7	要介護4	4
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 83 歳	最低 67 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉見クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは畑や水田に囲まれ、さわやかな陽差しや風が四方から入り、ゆっくりとした時が流れている。また、デイサービスが併設する敷地は季節の花が植えられホームの中にも飾られ季節感を感じさせてくれる。本人や家族の思いを大切にしたいという法人の理念が管理者を始め全職員に浸透しており、実現のために熱心に取り組む姿勢がある。職員がよく利用者の言葉、表情に耳を傾けており小さな行事等は利用者の発案で始まるが多々あり、一人ひとりがその人らしい生活を楽しんでいる。また、福祉の拠点としての取り組みも積極的に行い、地域の一員としてしっかり根付いてきている様子がうかがえる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) なじみながらのサービス利用については、利用前に訪問してなじみの関係をつくる取り組み等がされている。重度化や終末期に向けた方針の共有については、話し合いを持ち現在できることを明確にし、全職員で共有し本人や家族へ伝えている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が個々に評価を実施し、話し合いを持ちながら評価表を作成している。その過程で気づき等があり、話し合いを重ね改善に向け取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ホームの現状や介護相談員の報告が紹介され、委員との活発な意見交換が行われている。会議に出された要望で、成年後見制度の研修会を実施するなどの取り組みもある。また、委員から行事を実行するにあたってのアドバイス等があることも多く、それを生かして行事を実施している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族主体の家族会の組織がある。日々の様子を知らせるため、毎月家族だよりを作成し送付している。意見箱を設置したり、来訪時や行事の際声かけして、意見や要望を言ってもらえるよう雰囲気作りに留意している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の祭りや敬老会に利用者と共に参加し、職員が踊りを披露している。草取り等、環境整備に地域ボランティアの協力を頂いたり、そのお返しに利用者が手作りのお土産(雑巾やしおり)を差し上げるなど、地域とのふれあいを大切にしている。また、小・中学生を対象とした介護教室、高校生のインターンシップの受け入れの計画もある。近隣から農作物の差し入れもあり、お隣さんとしての付き合いがはじまっている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の下、利用者と家族の思いを大切にその人らしい生活を・・・と具体的なイメージを持ってホーム独自の理念「わたしらしく」を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員研修、介護職員会議、朝礼や申し送り時に理念について話し合っている。また、その実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや敬老会に参加したり、草取り等の環境整備に地域のボランティアに協力いただき、交流することに努めている。近隣から農作物の差し入れが届いたりしてお隣さんとしての交流がある。小・中学生を対象にした介護教室の開催、高校生のインターンシップの受け入れ等の計画もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員個々がそれぞれ評価を実施し、話し合いを重ねて評価表を作成している。その過程で気づきもあり、改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム側から利用者の状況や介護相談員からの報告等を紹介し、運営推進会議の委員と活発な意見交換が行われている。委員から出された意見については改善に取り組んでいる。また、行事開催について委員からアドバイス等があることも多くその意見を生かし実施している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から月2回介護相談員が訪問している。行事等へ市担当者等の出席もあり、ホームが取り組もうとする事業について協力がもらえる体制がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族だよりを発行し、利用者の暮らしぶりを伝えている。金銭面は、毎月小遣い帳のコピーを送付し、来訪時に帳簿に確認印をもらう等適切な処理をしている。その他、電話で様子を報告するなどきめ細かな対応がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族主体の家族会の組織がある。意見箱を設置し、行事や来訪時に声かけして何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意している。また、介護相談員の来訪時に、直接利用者の意見を聞いてもらいアドバイスをもらっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動時には利用者と家族に説明している。当初は夜間を2名体制にするなど、柔軟に対応して利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修を受ける機会が確保され、法人内の研修も充実している。研修を受講した際は、復命研修を行う体制になっており、研修内容を全職員で共有している。資格取得については、勤務のローテーション等を配慮する体制がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や地域包括支援センターの勉強会等を通じて情報交換を行っている。近隣の施設から利用者や職員の訪問があり交流が行われている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に職員が訪問してなじみの関係をつくったり、家族と共に事前の見学を受け入れ徐々になじめるようにしている。また、入居時は家族の協力の下、来訪や外泊を多く行う等安心してなじめるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に教えを請う場面が多く持てるよう職員が声かけやセッティングを行っている。調理のとき面取りを教えてもらったり、新聞の難しい字を尋ねたりと日常的に支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームごとに利用者の会があり、意向の把握に努めている。また、日常の会話や言動から本人の意向をくみ取り、介護職員会議等で話し合い、本人本位の視点に立った対応ができるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞き、担当者が作成した計画を基に職員で話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとにモニタリングが実施されているが、毎月担当者が日々のシートを基に状況報告書を作成し計画に沿ったケアを見直し検討する機会を設けている。状況に変化が生じた時は、即見直し新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や墓参りの支援を柔軟に対応している。また、福祉の拠点として自治会と協働で、家族や地域住民を対象に研修会を開催している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の掛りつけ医を継続している。また、希望があれば専門医への受診等も対応し適切な医療を受けられる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を踏まえ医療機関と連携をとり随時話し合いの下、今後の方針を決めている。急変した場合はすぐ対応してもらえるよう医療機関と連携を図っている。現状でできることを明確にして方針を決め全職員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時等の声かけはさりげなく行われている。また、個人情報の取り扱いについても十分な配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は買い物、散歩、昼寝、縫い物、自室でのテレビ鑑賞、そして時には利用者同士が誘い合っただけの外出等、一人ひとりのペースを大切にして過ごしており、それに沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の時は対面する台所から利用者に声かけして、アドバイスや手伝いを得ながら準備している。職員も一緒に数人ずつ食卓を囲み、さりげなく介助しながら楽しく食事をしている。日曜日は利用者と一緒に買い物に行き、献立を相談しながら食材を買う取り組みも行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3日であるが、希望に応じてシャワー浴は毎日利用でき、時間帯についても柔軟に対応できる体制がある。また、希望されれば併設のデイサービスの大浴場の利用もできる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の発案で、昔の生活を思い出す行事（さのぼり）や郷土料理（団子づくり）、お茶煎り等、時を逃さず即対応し取り組む姿勢がある。また、ボランティア等の来客用の土産品（雑巾・しおり）づくり等も利用者の発案で行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩、ドライブ、食材の買い出し等一人ひとりの希望に沿った支援をしている。また、各ホームごとに家族会主催の遠足が年1回行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けないケアを実施している。職員の見守りや声かけで自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、月1回防災訓練を行い、年2回総合訓練を実施している。また、地域の消防、警察、民生委員の協力が得られる体制もできている。月1回の防災訓練が同じ時間帯、同じ災害になっていた。	○	実践的な災害対策のため、昼夜を問わず職員や利用者が避難できる方法を身につけるためにもさまざまな時間帯や災害を想定した避難訓練を実施する取り組みを望みたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事摂取量はチェック表を作成し一人ひとりの状態を把握している。必要があれば法人の管理栄養士に相談し、補助食品を利用したり、食べられるものを提供する対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、庭に咲いた花があちこちに飾られ、行事の時の写真が貼られ居心地よく過ごせる空間になっている。そのまま横になれるスペースやくつろげるソファがあり膝掛けや毛布も用意されている。また、ベランダにテーブルやいすが置かれ、事務室の横にも一緒にお茶が飲めるスペースがあり、気まま過ごせる空間が確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが家具やテレビ等を持ち込み、本人が心地よく過ごせる空間になっている。面会簿が利用者ごとに各部屋に置かれ、家族が来訪の状況を把握しやすい体制ができている。		

※  は、重点項目。